

# 宙浮く使用済み核燃料

## 高浜再稼働目前見えぬ行き場

関西電力の高浜原発3号機（福井県高浜町）が29日にも再稼働する。原発を動かせば使った核燃料がどんどん増えてしまいが、その処理もためておく場所も決まっていな。一時的に置いておく「中間貯蔵施設」の県外建設を、福井県知事は再稼働に同意する条件の一つとして挙げたが、見通しは立たないままだ。



関西電力高浜原発3号機の使用済み燃料ピットから取り出されるMOX燃料  
＝2010年、福井県高浜町

## 再処理・中間貯蔵進まず

原発の使用済み核燃料は、原子炉がある建物の中のプールで保管されている。関電によると、原発11

基のうち、廃炉を決めた美浜1、2号機（福井県美浜町）を除く9基が動いた場合、7～8年後にプールが満杯になるとい。実際は9基がすでに動くわけではないので、さらに数年は持ちこたうだが、再処理や中間貯蔵施設ができなければ、使用済み核燃料を置くところが多くなってしま。い。

原発が動けば使用済み核燃料はたまっていく。すでに全国の原発全体で貯蔵できるとの7割超が埋まっている。使用済み核燃料が原発にたまり続けているのは、再処理が進まないためだ。日本原燃の再処理工場（青森県六ヶ所村）の完成は、2016年3月から18年4

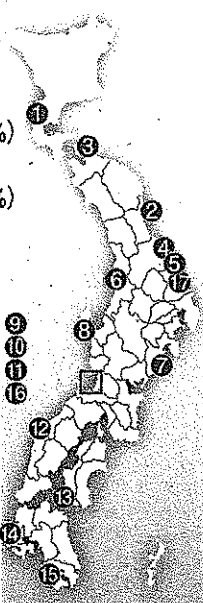
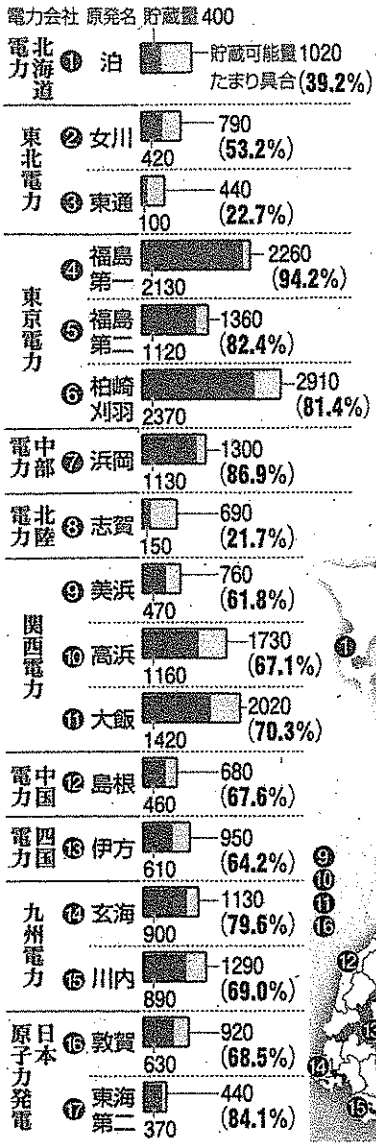
9月に延期された。延期は22回目で、「核燃料サイクル」は行き詰まりつつある。

今回再稼働する高浜3号機はMOX燃料を一部使う予定だが、それはフランスで加工されたものだ。原発が動き出せば使用済み核燃料がさらに増えて処理が追いつかず、たまり続ける構図に変わりはな。い。

## 再稼働を問う

### 原発にたまる使用済み核燃料

15年9月末現在。単位はトン。電気事業連合会の資料から作成



原発13基が集中する「原発銀座」を抱える福井県にとっては、使用済み核燃料

が県内の原発にたまっていくことに懸念がある。そのため、西川一誠知事は高浜原発再稼働の条件として、使用済み核燃料の中間貯蔵施設を県外につくるよう国と関電に求めた。

これに対し、関電は昨年11月、中間貯蔵施設を「20年ごろに福井県外で場所を決め、30年ごろに操業する」と発表した。ただ、関電の八木誠社長はその日の記者会見で、中間貯蔵施設の具体的な候補地について「お示しできる地点はない」と答えた。

関電は営業エリア内の自治体を回って、中間貯蔵施設の受け入れについての説明を続けているが、自治体の反応は強い。和歌山県の仁坂吉伸知事は今年19日の記者会見で、「南海トラフによる地震と津波の可能性があり、適地ではない」と述べた。京都府の山田啓二知事は反対を明言し、「八木社長も山田知事に対して「地元同意なくして進めない」と伝え、福井県と京都府は対象外という考えを示している。（諏訪和仁、伊藤政毅）

### 核燃料サイクル

原発から出た使用済み核燃料を再処理して、再び燃料に使う仕組み。日本原燃の再処理工場（青森県六ヶ所村）で、使用済み核燃料からプルトニウムとウランを取り出す。別の工場（同）で混合酸化物（MOX）燃料にし、再び原発で使う。使用済み燃料から取り出したプルトニウムを再利用する高速増殖炉「もんじゅ」はプルトニウムが溜まって見通しが立たず、運営の見直しが迫られている。